

2017年度をかえりみて

2017年度理事長

宮崎 敬也

まずは、2017年の青年会議所運動に参画くださった会員の皆さまをはじめ、お力添えを賜った五所川原 JC シニアクラブの先輩諸兄、各種関係団体の方々へ感謝を申し上げます。

現在、全国各地で人口減少が進んでいる中、今後それぞれの自治体は限られた予算を元に老朽化したインフラを維持し、増えていく社会保障を手当てしながら、各自治体が交流人口を綱引きし合いつつ、地域活性化を図らなければならないという課題を抱えています。

この状況を改善・解決するには困難が伴い、長い時間を要すると思われませんが、私達がこれまでに暮らしてきた地域や、見守り育ててくれた環境、地域の未来を切り拓いていく人材を次代に遺し繋げていくことが今日生きてきた私達の責務だと感じています。

こうした思いから、基本理念を「地域への思いを持ち寄り、形にしよう 地域の未来を切り拓くために」、LOM スローガンを「挑戦」と定めさせていただきました。一人ひとりが心に抱いている地域への思い（愛や関心、より良くしたいなど様々）を一つに持ち寄り、事業・運動という形につくり上げて実施していこう。それが後々、施した物事が繋がりが合い、やがて地域全体の利益と恩恵になっていくということ。そして、その運動を一人ひとりに促すためのスローガンでした。

結びに、青年会議所の役職は単年度制ですが、そこで培った力と仲間たちと紡いだ友情は一生のものです。会員の皆さまにおかれましては、本年の活動を通して学び築かれたそれらを活かし、来年以降も益々ご活躍されますことを心から期待しております。

一年間、たいへんお世話になりました。ありがとうございました！！

専務理事

島村 豊次

本年、宮崎理事長の下、専務理事という私にとっては大役を担わさせていただきました。振り返ってみると、専務職を経験してみて理事会や例会などの運営の難しさ、会員の皆様に各事業の周知などと会員サイドからは見えない世界がありました。また、宮崎理事長にお願いをし、幸樹園の子供達の為に何かしてあげたいという思いから、じょっぱりロードへの参加、そして年間を通して会員の皆様より募金していただきましたお金を寄付する事が出来ました。来年度もまた継続して幸樹園の子供達の為に我々が出来る事を考えながら経験の場を共有して参ります。

今年一年を通して、本来であれば宮崎理事長が出向する際、お付として行動を共にしなければいけないのですが、楽しい場へと勝手に足が進み、一緒に行動せず申し訳ありませんでした。卒業までまだ6年、挑戦ばかりの年が続くと思いますが、今年の経験を糧に頑張ってお参ります。

総務委員会

副理事長 佐々木邦和

今年度総務委員会副理事長を務めさせていただきました。委員長主導の下、委員が委員長をサポートする形で和気藹々と委員会活動を行えたものと考えております。総務委員会の活動はなかなか目に見えないもので、かつ替わり映えしないものです。そのような中、委員会活動が停滞を見せる時期もありましたが、会員の皆様のお力添えと忘年会をど派手にやろうという想いの下、一年間全うできたものと考えております。皆様、本当にありがとうございました。

青少年育成委員会

副理事長 檜崎 誉人

本年度、青少年育成委員会担当副理事長を務めさせて頂きました。

春は「わんぱく相撲」、夏は「じょっぱりロード」、秋は「じょっぱりロード事業報告会」とボリュームのある一年を過ごさせていただきました。「わんぱく相撲」では地域の相撲関係の方々に、「じょっぱりロード」ではボランティアスタッフ、小学生参加者、学校関係、教育委員会、その他にも様々な方々に御協力頂きながら無事に事業を終える事が出来ました。その甲斐がありまして「素晴らしい事業だった。」と沢山の方々から声を掛けて頂きました。当委員会の事業で経験し学んだ事をこれからの人生に少しでも活かしていただけたら幸いです。

当委員会は初委員長にして大事業に挑戦する葛西委員長、それを見事に支える経験豊富な平田副委員長、そして何より青年会議所経験が少ないながらも一生懸命に委員会活動に参加してくれる個性豊かな委員が沢山在籍しておりました。そんな委員会の団結が大事業の成功に繋がったものと確信しています。本当に楽しい委員会でした。そんな委員の中から来年度の青少年委員長が出た事もすごく嬉しく思いますし、誇りにも思います。この様にして「じょっぱりロード」は受け継がれて来たのです。

今年で私は五所川原青年会議所を卒業します。14年という長い年月を共に過ごした仲間は私の掛け替えのない宝物です。14年間お世話になりました。そして、誠にありがとうございました。

まつり委員会

副理事長 坂本 興平

2017年度、「まつり委員会」担当副理事長並びに「第45回奥津軽虫と火まつり」実行委員長を務めさせて頂きました。「まつり委員会」は優秀な対馬央也委員長の舵取りの下、本年6年目となった「奥津軽虫と火まつり親善大使」活動の新たな挑戦。まつり伝承継承活動（まつり紙芝居・松明製作）を皮切りに、各種マスコミ出演（テレビ、ラジオ、新聞）、市長表敬訪問などによる市民県民への普及促進活動等、かなりの過密スケジュール（痺れる日程）ではありましたが、全メンバーのご協力により乗り切ることが出来ました。「奥津軽虫と火まつり実行委員会」は副実行委員長・各部長がとても優秀で、今年度は花火部会の新設やまつり初体験の若いメンバーが多い中でも、円滑に事故も怪我もなく無事終えることができました。また、対馬委員長&委員会メンバーの功績で、過去最高となる五所川原市内小学生&保護者で約400名のまつり本番の参加（総参加員数15,000名）を実現することができました。次世代への伝承継承活動も含めとてもいい流れで終えることができたと考えております。まつりを取り巻く環境は様々な課題、問題がまだまだ山積しておりますが、今後も全メンバーで協力しながら、まずは節目の半世紀「第50回奥津軽虫と火まつり」に繋がられるよう今後も努力して参ります。

本年度も「役割果たして役職とすべし」を年頭に掲げ職責を果たせるよう邁進して参りました。皆様方のご協力により、最低限の担いは果たせたものと考えております。

最後に「自由奔放、広壮豪宕」な私と「懇切丁寧、万里一空」な対馬央也委員長率いるまつり委員会へご指導、ご助言、ご協力をいただいた方々に心から感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

まちづくり委員会

副理事長 田中 宏明

今年を振り返ると、先ず、休む暇が無かったと言わせて頂きたい。3月は新規事業のまちづくり運動情報交換会、5月から製作部会、7月は市民討議会、10月は実行事業、11月は市民討議会報告会と、例えると、コースの決まっていないマラソンをオーバーペースで走り酸欠でぎりぎりゴールした一年だったと思います。

「まちづくり」という抽象的なものを、事業に向けて具体性を持たせる事は難しく、あっちに行けば「まちづくり」こっちに行っても「まちづくり」、様々な「まちづくり」の選択肢の迷いと迫る期限の中で、委員会の道筋を決めていった平田委員長には、大変なプレッシャーがあった筈です。

忙しくてなかなか来られないメンバーも、委員会で積極的に意見を出してもらい、委員会の皆の協力のひとつひとつが、この一年の一步一步でした。いくつもの日々を超えて辿り着いた今がある。濃い一年とさせていただきありがとうございます。来年もどうぞよろしくお願い致します

会員拡大・交流委員会

副理事長 中西 宗興

本年度、当委員会では「会員拡大 30 人入会」を目標に掲げ活動して参りました。OBとの交流会や異業種交流会などの事業や、会員の意識を高めて会議所への興味を深めていただく定例会などの実施などにより、数名の入会を頂くことが出来ました。

しかし、卒業生 9 名を補う程の純増数を獲得することができず、来年は今年度よりも少ないスタートとなってしまいますが、今年度活動により撒いた種が、必ずや実ってくれることと信じ、バトンを引き渡したいと思います。担当の山田委員長と委員の皆様、協力して頂いた会員の皆様ありがとうございました。

会員研修特別室

室長 佐々木篤史

今年度、会員研修特別室室長を務めさせていただきました。雪がまだ降り続く季節、講師の久米川先輩に会う為に大曲に行った頃から始まった委員会。私と幹事からの猛プレッシャーにも負けずに色々な事業に挑戦して頂いた秋元担当理事のおかげで、とりあえず会員研修としての担いを委員会で出来たのではと感じております。また、委員会の雰囲気良かったのもこの一年間全うできた理由ではないかと思っています。私自身もまた、会員研修を通して自らの糧になるものを色々学ぶことができました。

ご意見を頂きました理事の皆様、委員会、事業に参加して頂きましたメンバーの皆様ありがとうございました。秋元担当理事、本当にお疲れ様でした。今年一年の会員研修の担いが、やがてメンバーと五所川原 J C の未来につながることをご祈念致します。

委員会活動報告

総務委員会

構成メンバー

副理事長 佐々木邦和
委員長 下川原伸彦
副委員長 大坂谷 努
委員 豊澤 孝行
神 康知
成田 若菜
山田 恭嗣

基本方針

五所川原青年会議所は創始から今日に至るまで地域の「明るい豊かな社会」の実現に向けて挑戦し続けて参りました。各時代、各世代、変動する社会の中で抱える課題に対し最善のまちづくり・ひとづくり運動を展開してきた先輩方の精神を受け継ぎ、我々も同様に、地域の未来を切り拓いて行かなければなりません。そしてその精神をまた次の世代へと受け渡して行く為に、高い公共性を維持した運営を努める責務があります。

今年度、総務委員会では公益社団法人として「民間が担う高い公共性」を維持すると共に、まちづくり・ひとづくり運動の促進を支える為にも、総会、定例会の設営、新年祝賀会、選考委員会委員選挙を滞りなく執り行って参ります。またホームページによる当会の運動発信、会員名簿、基本資料作成による情報公開を十分に行い、対外的、対内的にも信頼を得て我々の運動をより推し進めていく環境を培って参ります。

「明るい豊かな社会」の実現に向け、総務委員会が総会の開催、定例会の運営をこれまで以上に滞りなく行うと共に、公益社団法人として地域からの信頼を得ることはさらなる当会の発展、地域の未来を切り拓く糧となる事を確信し、挑戦してまいります。

事業報告

○ 新年祝賀会

開催日 : 平成29年1月29日(日曜日)

開催場所 : プラザマリュウ五所川原

参加員数 : 141名(来賓76名、シニアクラブ34名、会員31名)

事業内容 : 関係諸団体、諸先輩方に新年の挨拶と日々の感謝の意をお伝えする事。当日ご来場の方々に当会の今年度の体制や方向性、事業内容を紹介することで会員それぞれも当会の方向性や自分の所属する委員会の役割を明確に理解することにつなげた。

○ 2月通常総会

開催日 : 平成29年2月20日 (月曜日)

開催場所 : ホテルサンルート五所川原

参加員数 : 会員 35 名

事業内容 : 2016年度の事業報告及び収支決算を承認し、2017年度の各事業を推し進めるための理解を深め、一年間青年会議所運動を展開していく意識の向上を図った。

○ 7月定例会

開催日 : 平成29年7月14日 (金曜日)

開催場所 : 五所川原市学習情報センター

参加員数 : 39名(正会員36名、仮入会員3名)

事業内容 : 公益社団法人五所川原青年会議所役員選任規程第2条による次年度役員を選考する役員選考委員会を設置し、8名の委員をもって構成し、第3条4項に基づき、7月例会に於いて理事長並びに正会員たる理事長経験者を除く、正会員中より3名連記の無記名方式による選挙を行い、上位得票者より役員選考委員を選出した。

○ 9月通常総会

開催日 : 平成29年9月21日 (木曜日)

開催場所 : プラザマリュウ五所川原

参加員数 : 42名 (正会員 41名 仮入会 1名) ※委任状 6通

事業内容 : 2018年度役員候補者を承認し、次年度の体制を整えた。

○ 12月定例会 2018年度事業計画説明会並びにLOM内褒章授賞式

開催日 : 平成29年12月10日 (日曜日)

開催場所 : プラザマリュウ五所川原

参加員数 : 会員 34名 (正会員 34名)

事業内容 : 2018度の基本方針、組織図、事業計画及び予算を会員に報告し、来年の五所川原青年会議所の方向性を示し、事業を円滑に行えるようにした。また本年度行った全運動の中での功労者(委員会および個人)を称えることで、2018年度のJC運動に対する全メンバーの士気を高めた。

かえりみて

総会の開催、毎月の定例会の設営、地域への情報発信など例年事業内容の定められている総務委員会ですが、より良い結果を生むために前年の問題点、引継ぎ事項を基にその手法の変更を必要とし、またその中で今年の「総務色」をも求められるものであり、簡単な職務ではありませんでした。

1月に行われた新年祝賀会は大きなトラブルやミスはなく無事に終える事が出来ました。五所川原青年会議所の3大事業の陰に隠れてますが、その規模は3大事業に匹敵するものだと感じました。その中で初委員長と言う事もあり、委員会メンバーへの仕事の割り振りが上手く出来ず、1人で四苦八苦していた

ように思います。事業を重ねる度に少しずつ改善されてはいましたが、この問題は今年 1 年を通してずっと抱えてきました。事業全体をよく把握し、どのような業務、役割があるかを見極め、委員会メンバーに仕事を割り振る事で、もっと完成度の高い事業が出来たでしょうし、自分の負担も減らせたでしょうし、委員会メンバーももっと達成感を感じてもらえる事が出来たと反省が残ります。

7 月定例会の「役員選考委員会委員選挙」のクイズ大会、12 月定例会の「委員会活動紹介動画」、LOM 内褒章での「バロンドール五所川原 J C 賞」は事業内容の定められている総務委員会の中で今年の「総務色」を出せたのではないのでしょうか。良きアドバイスをくださった佐々木副理事長、沢山の意見を出してくれた委員会メンバーに感謝致します。また、皆勤賞こそ 1 人でしたが他の委員会に比べるとかなり高い出席率で毎月の定例会の設営を行い私を支えてくれて本当にありがとうございました。

会員拡大・交流委員会

構成メンバー

副理事長 中西 宗興
委員長 山田 貴之
副委員長 近藤 陽介
委員 對馬幸征
花田憲一郎
葛西翔悟
荒関利康

基本方針

会員拡大活動は、例えるなら人間にとっての呼吸のようなものであり、一時も休むことは許されません。会員拡大活動の停滞による会員数の減少は、青年会議所運動の地域への波及力を弱める事に繋がり、また会員交流は会全体の青年会議所運動の目的意識の統一を図る大切な手段であります。その意識の統一により、当会の運動を地域へ強く伝播する事ができます。この尊い運動を次代へ引き継いでいく為にも、会員拡大並び会員交流に真剣に取り組む必要があります。その為にはまず、会全体に定期的に対象者情報を求め、拡大対象者リストを作成します。会員拡大活動に対する当事者意識を浸透させ、会員拡大の重要性を強く意識付けさせます。そして、先輩諸兄並び他団体へ会員拡大活動を行うことで、幅広く会員候補者の情報収集に努めます。また、青年会議所の魅力を発信する会員拡大の定例会を行います。さらに先輩諸兄・会員家族との交流会を行い会全体の運動に一層の御理解、御協力を賜れるようにして参ります。当委員会が会員拡大・交流事業活動の中心となり、会員相互の交流を深めていき、また、多くの会員に拡大の重要性を伝えていきます。そして一人でも多くの仲間を増やしていくことにより当会の活動を強く地域に伝播し、次代へと繋げられると確信し、一年間邁進して参ります。

事業報告

○ 3月定例会「社会保険労務士が語る 得する話・損する話」 開催日：平成29年3月28日（火曜日） 開催場所：五所川原市民学習情報センター 1階 参加員：会員29名・会員候補者13名 事業内容：最新の法改正や労働事情を踏まえ現在改訂してある就業規則をベースに、法的根拠、トラブル事例、判例などを交えた会社を守るセミナーの開催致しました。会社を守るセミナーを通じて会員一人一人が学び、その姿を会員候補者に見てもらうことで自分たちが事業を展開していることを自覚します。それが自信に繋がり、青年会議所の魅力を会員候補者へ発信することが出来、拡大意識向上を目的と致します。

○ 会員拡大事業通年 開催日：平成29年1月1日（日曜日） 開催場所：五所川原青年会議所・定例会・総会・各種事業
参加員数：会員49名 事業内容：拡大の横断幕を作り、視覚的に会員拡大の委員会の意気込みを示すこ

とにより、拡大に対する会 員全員の当事者意識を浸透させる。総会・定例会などで5分時間を設け拡大の現状状況を随時報告致します。・全委員会に入会リストを手渡しし、入会リストの説明、現在の候補者との関係性(仕事・友人・知人など) 性格な年齢などの情報収集をする。・先輩など直接挨拶に行きリストを確認してもらい情報収集する。(リストにない方の情報収集もする) 他団体とお互いの情報交換をする。・会員拡大・交流委員会で拡大リストを A・B・C にランク付けする。集計次第、訪問出来る日時など段取り を組む。 (知人がいる場合はその会員も同行するように致します)

○ OB 交流会事業 開催日 :平成29年2月18日(土曜日) 開催場所:養老乃瀧 五所川原店 参加員数:会員18名・シニアクラブ13名 事業内容:五所川原青年会議所会員と五所川原シニアクラブとゲームを通じて交流を図る。

○ 異業種交流会事業 開催日 :平成29年4月18日(火曜日) 開催場所:ボウリング会場:イズミボウリング 参加員数:会員20名・会員候補者7名 事業内容:アトラクションを通じて会員候補者と交流を図り会員増進に繋がります。

かえりみて

2017年度、宮崎理事長のもと会員拡大・交流委員会委員長をさせて頂きました。会員拡大・交流委員会は今年「目指せ30名!!」をスローガンに邁進して参りましたが、振り返ってみますと、退会者などを多く出してしまい波乱万丈な一年だったなと感じました。2月はOB交流会事業を通して、会員候補者の情報収集、3月定例会は会員候補者をお呼びして公開定例会、4月異業種交流会はアトラクションを楽しみながら交流を図りました。通年事業では他の会員が候補者情報の提供などをしてくださいました。会員拡大委員メンバーや、他の会員に沢山支えられながら、ごくわずかな人数ですが入会させることが出来ました。今年入会数が少ない分、来年の拡大委員長を全力でサポートしていきたいと思えます。最後に会員拡大にご協力してくださった皆様、本当にありがとうございました。

青少年育成委員会

構成メンバー

副理事長 檜崎 誉人 委員長 葛西 良樹 副委員長 平田 ユキ子 委員 境谷 幸人・石川 恭裕・柳澤 辰男・野上 新一朗・平山 智久・川浪 晃矢

基本方針

現代の子ども達を取り巻く環境は、目まぐるしい速度で変化し続けています。その中で、社会体験や生活体験の不足により、自立の遅れ、将来への夢を描けない子ども達も少なくありません。今後、地域の未来を支え担って行かなければいけない子ども達が、自らの可能性に気づき、自分自身の考えを持ち行動していける人材になる為の道筋を作っていかなければいけません。元気いっぱい未来へと羽ばたいて行く為にも「挑戦」する機会を創出し、多様な体験を経験し成長して行く場が必要だと考えます。そこで、青少年育成委員会では「挑戦」の機会として、新たな風を吹き込んだ徒歩事業を開催し、「じょっぱりロード」として再開して参ります。様々な体験を通して、感受性豊かに自分自身で行動し、社会に通用する青少年の育成を目指して参ります。また「わんぱく相撲大会」を開催し、自分自身の未来へ「挑戦」している子ども達の心身の鍛錬、相撲が持つ礼節を知り、人を思いやる気持ちや感謝の心を育めるように促し、成長の場として行動して参ります。事業を通じて培った経験は、今後自分自身が成長していく為の糧となり、人生において大きな財産と

なります。また、この財産は今後、地域の宝となり、「明るい豊かな社会」の創造に繋がるものと確信し、一年間邁進して参ります。事業報告 ○ じょっぱりロード実行委員会設立 開催日：設立期間平成29年年4月1日（土）～12月31日（日） 開催場所：五所川原市 五所川原市中央公民館 五所川原市民学習情報センター 参加員数：第1回 参加人数24名 第2回 参加人数22名 本番 参加人数36名 事業内容：じょっぱりロードを会員全員で一致団結し、遂行していくと共に当事業を成功へ導く為の 実行委員会設置。

○ ボランティア研修会・ボランティアチラシ・参加者説明会・参加者チラシ作成・日時 開催日：じょっぱりロード本番日時 平成29年7月28日（金）～30日（日）2泊3日 チラシ作成 配布 平成29年3月～5月 第1回ボランティア研修会 平成29年6月11日（五所川原市中央公民館） 第2回ボランティア研修会 平成29年7月9日（五所川原市民情報学習センター） 第3回ボランティア研修会 平成29年7月16日（岩木山） 全体事業説明会 平成29年7月23日（五所川原市中央公民館）

開催場所：五所川原市 五所川原市中央公民館 五所川原市民学習情報センター 参加員数：チラシ作成 配布 委員会メンバー全員 第1回ボラ研（会員15名 ボランティア16名） 第2回ボラ研（会員18名 ボランティア15名） 第3回ボラ研（会員11名 ボランティア10名） 事業説明会（会員15名 ボランティア18名 参加者20名）

事業内容

チラシ配布 次代を担う子ども達が事業へ参加する為に小学校、中学校、高校、大学へチラシを配り参加を促すこと。 ボランティア研修会 ボランティアスタッフの成長の場として3回にわたり研修会を開催

し、子ども達との接し方や、歩く為の注意事項、団結力を高める為の研修会。 参加者説明会 参加者への事業説明会。

○ 5月公開定例会「第33回わんぱく相撲津軽地区大会」 開催日：平成29年5月28日（日曜日）
開催場所：つがる市つがる地球村相撲場 参加員：津軽地区4～6年生男子：小学生34名 JC会員22名 弘前JC7名 事業内容：「相撲」を通じて、自分自身の未来へ「挑戦」している子ども達の心身の鍛錬、相撲が持つ

礼節を知り、人を思いやる気持ちや感謝の心を学ぶことにより青少年の健全なる心身の育成を行うことを目的として「33回わんぱく相撲津軽地区大会」を開催。

○ 8月公開定例会「じょっぱりロード～OMOIYARI への旅～」 開催日：平成29年7月28日（金）～7月30日（日） 2泊3日 開催場所：弘前市弥生いこいの広場～岩木山～鯨ヶ沢町 参加員数：正会員35名 参加者27名 ボランティア18名 事業内容：子ども達が事業を通じて自らの可能性に気づき、感受性豊かに自分自身で行動し、社会に通用

する「OMOIYARI」の精神を持ち行動していける人材になっていく事、また、普段経験することのない岩木山山頂を目指すという体験の中から、今まで経験のしたことのない感動、そして大きな目標を乗り越えて肌で感じる達成感、みなぎる自信を得る事、またボランティアスタッフは、これからこの地域を担って行く人材になることを目的とし、2泊3日岩木山登山を含む「じょっぱりロード～OMOIYARI への旅～」

○ 「第33回わんぱく相撲全国大会」 開催日：平成29年7月30日（日曜日） 開催場所：両国国技館 参加員：五所川原代表として4～6年生 地区優勝者3名 引率者2名 事業内容：公益社団法人東京青年会議所が主催するわんぱく相撲全国大会。地区大会を勝ち抜いた選手

3名が参加。「相撲」を通じて、自分自身の未来へ「挑戦」している子ども達の心身の鍛錬、相撲が持つ礼節を知り、人を思いやる気持ちや感謝の心を学ぶことにより青少年の健全なる心身の育成を行うことを目的。

○ 「じょっぱりロード事業報告会」 開催日：平成29年9月10日（日曜日） 開催場所：五所川原市民学習情報センター1階 参加員：63名（参加者19名、ボランティア参加者10名、保護者16名、会員18名） 事業内容：8月定例会の目的が達成されたかを検証すると共に、再開した仲間と再会し一層の友情、絆を深めて頂く為、DVD鑑賞、完歩認定証の授与、アンケートを開催。

かえりみて 昨年の9月に宮崎理事長より委員長をやらないかと打診を受け、初めての委員長が青少年育成委員会。 右も左もわからない状況で何から手を付けていけばいいのかわからず、檜崎副理事長に0か

ら指導を受

けやっとの思いで委員長所信を作成しました。そこからわんぱく相撲、じょっぱりロードと怒涛の数か月でした。委員に恵まれ、3月からじょっぱりロードのチラシの作成・配布を皮切りに、最後のじょっぱりロード事業報告会まで、沢山行動していただきました。わんぱく相撲に関しては本当に誰もが相撲を理解し

ていない状況で一丸となり副審判や、子ども達の誘導、土俵の砂掃きをして頂きました。新たな挑戦として岩木山登山を組み込んだじょっぱりにも快く賛同して沢山の協力をして頂き、委員メンバーがいなければ、本当にどの事業も出来なかったと思います。足手まといな委員長に最後まで付き合っただき、本当に感謝でいっぱいです。どの事業よりも会議所メンバー、参加いただいた未来を担う子ども達が成長していける事業をやって

きたと自負しております。必ずや事業を通じて培った経験は、成長していく為の大きな財産となります。また、この財産は今後、地域の宝となり、「明るい豊かな社会」の創造に繋がるものと確信しています。最後まで本当にありがとうございました。感謝

まつり委員会

構成メンバー

副理事長 坂本興平
委員長 對馬央也
副委員長 工藤智哉
委員 川村優弥 森下洋光 石田潤

基本方針

1973年より開催され、本年で45回目を迎える「奥津軽虫と火まつり」。自然との苦闘の歴史から生まれた「地域の幸せ」を願うまつりは、いよいよ半世紀に差し掛かろうとしています。地域に愛されているこの伝統行事も、近年は参加団体の減少、後継者不足等の問題に直面しています。まもなく節目を迎える伝統の燈火を絶やさぬ様、関係諸団体との意識共有・連携を図り、まつりの更なる未来を切り拓くため、より継続的な運動を展開して行かなければなりません。

その為にも、高校生・大学生を対象とした親善大使活動を継続し、親善大使に登録する定例会を開催します。その中で、まつりの意義・大切さを学んだ親善大使による地域への周知活動、そして小学生へと広く伝承して参ります。また、関係諸団体・当会OBそして青年会議所メンバーが現行のまつりの課題を話し合い、節目に向け解決へと前進する為の場を創出します。そして、関係諸団体と一丸となり、節目へと一歩踏み出した「奥津軽虫と火まつり」を開催し、次代に向けて伝承して参ります。

半世紀の節目へと歩き出す「奥津軽虫と火まつり」。50回目を見据えて運動を展開し、この歴史ある伝統行事を次世代に伝承していくことにより「地域の未来を切り拓き」「明るい豊かな社会の実現」そしてこの地域の「弥栄」に繋がるものと確信し、一年間職責を果たせるよう邁進して参ります。

事業報告

○ 4月公開定例会「奥津軽虫と火まつり親善大使登録会」

開催日 : 平成29年4月23日(日曜日)

開催場所 : 五所川原市中央公民館 3階大広間

参加員 : 会員24名、高校生22名、ポリテク1名

事業内容 : 参加団体の減少・後継者不足が懸念される中、その解決に向け「親善大使登録会」を開催し
応募された高校生・大学生に活動内容を説明することで、親善大使への登録を頂いた。

○ 6月公開定例会「奥津軽虫と火まつり」

開催日 : 平成29年6月17日(土曜日)

開催場所 : 五所川原市内(大町～岩木川河川敷)

参加員 : 会員38名、観覧者約15,000名

事業内容 : 「天下泰平」「国家安泰」「五穀豊穰」「悪疫退散」の祈りを込めた「地域の幸せ」を願うまつり「奥津軽虫と火まつり」を開催した。

○ 事業「奥津軽虫と火まつり親善大使の活動」

開催日 : 平成29年4月23日～6月17日

開催場所 : 五所川原市 (主たる活動)、青森市 (TV出演)

参加員数 : 親善大使67名、小学生425名

事業内容 : 親善大使活動を通じて、主体となる高校生・大学生、対象となる小学生のまつりへの興味・関心を高め、将来的な後継者の育成に繋げた。また、活動によって地域住民のまつりへの興味・関心を高めて頂いた。

○ 事業「奥津軽虫と火まつりを考える事業」

開催日 : 平成29年8月29日 (火曜日)

開催場所 : 五所川原市民学習情報センター 1階大教室

参加員数 : まつり参加団体4名、シニアクラブ1名、会員24名

事業内容 : まつりが諸問題を抱える中、時代に即したまつりとはどのようなまつりなのかを議論して頂き、第50回奥津軽虫と火まつり開催に向け、まつりの更なる変化・発展を見出し、次年度へ引き継いだ。

かえりみて

昨年度、親善大使活動を行う小学校が11校に増えました。今年度もそれに倣い、委員会メンバーと共に市内11校への挑戦が始まりました。3月PRは11校、4月PRも11校、そして紙芝居協力校が9校となり、小学校へは合計31回赴くこととなりました。その他まつり関連活動も含めると、その労力たるや半端なものではなく、それらを1発目に行った16まつり委員会はまつり功労者なのか、それともA級戦犯なのかを深く考えさせられました。しかし、小学校を巡っている中で親善大使・小学生双方の笑顔が見られると、その苦労もどこ吹く風。まつり当日の小学生参加者は親御さんを含め例年を大幅に上回る結果となり、PR活動としては大成功に終わったと思います。そしてまつり終了後の笑顔溢れる委員会メンバーからは達成感と充実感が見て取れました。その他メンバーからも「親善大使活動の完成形が見えた」との意見も頂き、結果、次年度への具体的な引継ぎが行えたものと考えます。

今年度のまつり委員会は「笑ってはいけない毒ガースー小学校」を耐え抜き、その結束力で共に濃密な3ヶ月間を過ごしました。この短期決戦の過ごし方は、昨年度担当した総務委員会とは全く違ったまつり委員会独特なものであり、坂本副理事長が良く使う「痺れるね～」の一言に尽きるものだと思います。「奥津軽虫と火まつり」は当会の全体事業であり、市民に誇れるまつりです。その中核を担う「奥津軽虫と火まつり実行委員会」並びに「まつり委員会」での活動は、本当に本当に痺れるものでした。

まちづくり委員会

構成メンバー

副理事長 田中宏明

委員長 平田浩介

副委員長 高松一政

委員 高橋尚裕 成田和代 木村健太郎 小山内圭輔 山田悟史 松谷朋典

基本方針

自分たちの住み暮らすこの地域は、山や海や湖など自然豊かで、四季折々の美しさがあり、特に夏には、たくさんの祭りが開催され、大いに盛り上がりを見せています。しかし、その一方で、少子高齢化や人口減少が進み、後継者不足や地場産業の衰退も問題視されております。この問題をこの地域に住み暮らす「人」による前向きな社会参画意識を持って、地域の未来の為に行動を起こし、地域活性に繋がっていかねばなりません。

その為には、2012年度から継続して行われている、「市民」「行政」「当会」の協働による「市民討議会」を開催して、地域に起こっている課題と特色について意見を交わし、市民一人ひとりに前向きな社会参画意識を抱いて頂けるよう、事業を計画して参ります。そして、「市民討議会」で提案された意見を実現する事業と「市民討議会報告会」を開催するとともに、この地域で行われている「まちづくり」運動の情報を共有できる事業を行い、地域全体のまちづくり運動の意識向上を目指して参ります。

この地域に住み暮らす「人」が、前向きな社会参画意識を持って地域を思い行動し、「まちづくり」運動を展開して行く事で、人口減少にも歯止めをかけ、地域活性に繋がって行くとともに、当会が目指す「明るい豊かな社会」の実現に繋がるものと確信し、一年間邁進して参ります。

事業報告

○ 11月定例会「平成29年度 五所川原市民討議会報告会」

開催日 : 平成29年11月11日(土曜日)

開催場所 : 五所川原市民学習センター

参加員 : 会員19名、市民3名、弘前大学学生1名、講師1名

事業内容 : 平成29年度五所川原市民討議会から市民討議会実行事業の結果を五所川原市・市民に報告するとともに、講師講話で「地域で育む子どもの遊び場は？」をテーマに「子育て環境」について学びました。

事業「まちづくり」運動情報交換会～地域の輪を広げよう～

開催日 : 平成29年3月21日(火曜日)

開催場所 : プラザマリュウ五所川原

参加員数 : 会員24名、各団体20名

事業内容 : 各地域で「まちづくり」運動を展開している団体の「まちづくり」運動の活動内容や方法、成果などを聞き、また、他の地域の特産や名所などを知り、知識を深めて、地域の輪を広げ

て地域全体で魅力発信していけるようにする。講話では「まちづくり」運動の手法や今後必要な運動等を学びました。

○ 事業 市民討議会実行事業「親子で体験！森のビンゴ族」

開催日：平成29年10月29日（土曜日）

開催場所：青森県立梵珠少年自然の家

参加員数：会員18名、市民討議会参加者市民3名、一般市民140名

事業内容：市民討議会が出た意見を具現化し、市民の社会参画意識の向上と五所川原の子育て環境を周知してもらうことを目的に、少年自然の家の散策コースを利用し、ビンゴ族から出されるミッションやクイズ等を解いて、またビンゴカードに書かれている物と同じ物を見つけビンゴを完成させ、得点で順位を決めるという親子で楽しめる事業を開催した。

かえりみて

地域を良くするのは、その地域に住み暮らす「人」です。本年度は、地域の皆様と協力して魅力ある地域にしていこうと心掛けて参りました。そして3月事業では、五所川原市以外の市町村からまちづくりに関連している多くの団体に参加してもらい、情報共有と交流ができ今後の活動に繋がられたと思います。また、今年の市民討議会のテーマは「子育て環境」でした。簡単そうで実は難しいこのテーマで、市民の皆さんには多くの意見と実行事業に繋がる企画を考え出していただき、五所川原の自然に触れ親子で楽しめる企画「親子で体験！森のビンゴ族」に繋がっていきました。森のビンゴ族も多くの皆さんに参加していただきました。アップダウンの激しい散策コースでしたが、「疲れたけど、すごく楽しかった」という声をたくさんいただき、大変うれしく思っております。これも、協力していただいたメンバーと市民のみなさんのおかげだと感謝しております。

今年は、スローガンにもあるように「挑戦」し続けた一年でした。3月から事業を行い、11月に市民討議会報告会を終えるまでずっと挑戦の毎日でした。そんな過酷な日々でも、ここまでやりきれたのは、田中副理事長と委員会メンバーのおかげだと感謝しております。まちづくり委員会委員長としての役割は終わりますが、次年度にこの思いをしっかりと引継ぎ、より良い地域にする為に邁進していきたいと思っております。一年間ありがとうございました。

会員研修特別室

構成メンバー

室長	佐々木篤史
担当理事	秋元 隆
幹事	高橋 美奈
室員	山下 高弘、福士 裕明、吉田 博貴、鎌田 智行

基本方針

我々は20歳から40歳までの限られた間に、青年経済人として、また青年会議所という地域の未来を切り拓く組織の一員として、偏ることなく地域活性化の為に学んでいかなければなりません。当会会員として様々な運動をしていく中で、会員同士がお互いに切磋琢磨し、お互いを高めていくためにも多面的な学びの場を設け、会員一人ひとりが研鑽し資質を高め自己の成長へ繋げると共に、五所川原青年会議所全体の成長に繋げていかなければなりません。

そのためには今年度会員研修委員会の活動と致しまして、新入会員が会員としてこれからの当会をしっかりと担っていく為の「思い」や「基礎」を学ぶ場を設けていきます。また、青年会議所会員としての視野も含めた多面的な視野での学びの機会を設け自己の成長へ繋げると共に、諸先輩の考えを学ぶ場を設け、知識や経験を習得できる機会を創出し、「修練」「奉仕」「友情」という三信条の基礎を深く理解し、幅広く活躍できる人材の育成を致します。

会員一人ひとりがしっかりと学び、その学び得たことを実践し、自分自身が飛躍することにより、当会のみならず、会社や家族、地域からも必要とされる人材・団体となれるものと信じ、一年間邁進して参ります。

事業報告

○会員の資質向上につながるセミナー

開催日：平成29年2月20日（月曜日）

開催場所：ホテルサンルート五所川原 2F

参加員数：対内33名、対外12名、合計45名

事業内容：東北地区協議会会長を務めた久米川和行先輩をお招きし、青年会議所活動で経験したことをご講話いただきどのように活かしていくかを学びました。

○新入会員セミナー

開催日：平成29年5月17日（水）

開催場所：商工会館4階会議室

参加員数：17名

事業内容：新入会員の方々に青年会議所の概要を理解していただき、青年会議所での自分のあり方・今後の目的を持って活動して頂く事を学んでいただきました。

○東北青年フォーラム in 奥州ツアー

開催日 : 平成29年9月2日(土)・3日(日)

開催場所:【メイン会場】奥州市文化会館 【大懇親会】水沢競馬場

参加員数: 16名

事業内容: 近年、東北青年フォーラムに参加する会員が減っている傾向にあり、折角の青年会議所メンバーとしての成長の場、出会いの場を活用できていないという問題解決のため、東北青年フォーラムのツアーを企画することにより参加を促し会員の成長、出会いの場を作りました。青年フォーラムではメインフォーラムから始まり出向メンバーの頑張りを見ることにより、各々が大会への参加の意義を感じ取りました。

○ 10月定例会「今までのJC事業を学びこれからの事業を考える」

開催日 : 平成29年10月17日(火)

開催場所: 五所川原市民学習情報センター1階大教室

参加員数: 31名

事業内容: 過去の事業を紹介しつつも、今の時代に合わせた事業の作り方を学んでいただきました。考え方の違うメンバーが一つの目的に向かい各々の考えを主張しながら事業を委員会で作っていただきました。最後には考えた事業を発表する模擬理事会を経験していただきこれまで委員長をやったことがない人などはとてもいい経験になったと思います。

かえりみて

会員の資質向上は初めての経験でした。当初はこんなことがしたい、あんなことがしたいと思いメンバーの皆さんのお役にたてるよう1年間やってまいりましたが、皆さんのお役には立てなかったものも数多くあったような気はします。この1年で学んだことは自分から学びにいかねば得られるものは少ないということです。ただやらされているだけ、ただ聴いているだけの人では学べるものは格段に違ってきます。私自身も貪欲に学ぼうと思いつつもいつの間にかそうになっていた気がします。人の成長を考えるこの会員研修室だからこそその大切さに気付きました。このような場を与えていただきありがとうございました。また1年間頼りない私を支えていただいた会員研修室の皆様、本当にありがとうございました。

2017年度庶務報告

《入会者》 荒関利康君、柳澤辰男君、松谷朋典君、山田悟史君、
野上新一朗君、

《卒業者》 荒関利康君、大坂谷努君、菊池孝一君、今一憲君、 境谷幸人君、中西宗興君、檜崎誉
人君、成田和代君、
山下高広君

◇J C 功労賞 荒関利康君、大坂谷努君、菊池孝一君、今一憲君、 境谷幸人君、中西宗興君、檜崎誉
人君、成田和代君、
山下高広君

◇定例皆勤賞 大坂谷努君、高橋美奈君、山下高広君

◇新人賞 松谷朋典君、山田悟史君、柳澤辰男君

◇挑戦賞 平田浩介君、葛西良樹君

◇バロンドール五所川原J C賞 葛西良樹君

◇委員会OF THE YEAR2017 青少年委員会

◇JAYCEE OF THE YEAR2017 對馬央也君